



希望の丘に立つ初等学校の学舎

発行者／学校法人内田学園
七沢希望の丘初等学校

発行日／平成23年11月1日

七沢希望の丘 初等学校 新聞

巻頭言

「幼児・児童期に必要な
人間形成の充実を求めて」
校長 内田文江

核家族、一人っ子が急増した昭和40年代、入園してくる幼児の姿に依存する態度が強くなってきていることを見ようになりました。これやってよ、あれもしていい？という、自分で判断して取り組むことの少ない子たちをどう育てるかを園内研究として追求した私たち保育者は、少人数のノングレード・グループをつくって遊ばせたり、散歩を取り入れるようになりました。そして、大人の模倣のおままごとで本当の紅茶を入れてお客様ごっこをしたり、畑の野菜をつかって豚汁をつくるという家庭の生活を取り入れたり、保育者は子どもの計画する活動に対して、必要なものを考えさせたり準備させたり、子どもたちの活動を支える役割をもつことが多くなりました。

以上のような日々の活動が、一人ひとりの子どもの発言となり、自発的行動や自立の態度をとれることにつながります。「明日は何をしようか」と計画も立てるようになると、「感じて、考えて、達成する生活」となり、一つだけの仕事を何人かでやりたいとなると、自己抑止をして、他者に道を譲る態度もできるようになっていきます。

七沢の春夏秋冬に、子どもたちの活動をくり返すことで、テーマ活動は同じであっても、例えば絵本づくりや野菜をつかって食べるなど、3年間取り上げることで子どもたちの生きる力や自信も育ちます。そして、自治の生活を通して、学び方を学ぶことも可能であると理解した大人は、目の前の幼児と小学校前期の子どもたちの心身の育ちが同じレベルにあることを通して、初等科との連携により幼児・児童期に必要な人間形成の充実を求める道をとりました。それが、「七沢希望の丘初等学校」です。今、2年半の子どもたちの日々の活動や今年のプレイデいの活動内容、表現力の豊かさは、これからさらに高まることでしょう。



内田文江校長

目次

特集記事

- 巻頭言／「幼児・児童期に必要な人間形成の充実を求めて」 1
- 希望の丘プレイデイ 2
- 希望の丘プレイデイ 3
- 自由研究発表会報告 4
- 希望の丘のステージに 5



緊迫感あふれた創造的なピタゴラレース

希望の丘のフレイティ、次のステージへ！



選手宣誓、がんばれたよ！

10月15日(土)、「希望の丘プレイデイ」はあいにくの雨模様にもかかわらず、地域やご近所のご来賓を始め多数の保護者の皆さまをお迎えして、多目的ホール内で開会しました。雨天による室内開催のために、「希望の丘で希望の丘らしさ」を子どもたちの澆刺とした姿を秋の中心的学校行事として実現できるか、開始当初は危惧しました。しかし、4つのグループの手作り旗を先頭にした堂々の入場行進と開会セレモニー、4年生大野晴哉君の元気な選手宣誓で会場内は一気に盛り上がり、出場・出演する子どもたちの緊張感あふれる姿を間近に応援できたりして、かえって功を奏する形となりました。

そして、午後には希望の丘に天も味方し、校庭に会場を移して思う存分プレイデイを楽しむことができました。

七沢希望の丘初等学校の今年のプレイデイは、本校の校庭を会場とした子どもたちの活躍の場面を随所に取り入れた、体育的 school 行事のねらいも加味し教育効果を意図し、「希望の丘で希望の丘らしさ」をどう創り出していくかが重要なポイントとなりました。それは、子どもたちと教師による話し合いの場を重ねながら、全校児童18名と10数名の教職員で限られた校庭スペースを効果的に活用した「魅力ある学校行事」をどう企画／実行するかという目標でもあり、課題でもありました。

つまり、大山南麓の自然環境と豊かな森の生態系に囲まれた希望の丘の教育環境の中で、「子どもたちの夢と希望」の実現を目指した教育活動をどのように展開するかという重要なテーマでもありました。その結果、まず一つ目の特徴は、本校の特色である、児童の縦割り集団(1年生から5年生までのノングレードによる4グループ編成)による活動の場を生かした取り組み方法です。プレイデイ種目の多くはグループ競争による得点種目であり、プレイデイの準備段階から当日の運営まで、各種の「放送進行」「審判」「採点」「看板／飾り」系の仕事を担当しながら、大活躍の子どもたちでした。

二つ目の特徴は、「プレイデイ」という名称から。今、他校で行われている、いわゆる秋の運動会行事と違う点がありますが、本校では日常の体育の学習を基盤としつつも、子どもたちの創造力あふれる各種の表現活動の場を意図した「総合的／体育的／学校行事」として位置づけました。つまり、本校の教育の重点である、テーマ学習の展開をベースとした特色ある「秋の中心的行事」の一つとなったと言えるでしょう。子どもたちは、プレイデイに対して主体的に向き合い、仲間たちと協力し合いながら、いろいろな課題の解決と探求からよりよい方法を見だし取り組むことができました。9月半ばから一月あまりの期間を経て、子どもたち一人ひとりが主体的に創造的に、協同的にプレイデイを学び楽しんだ一日となりました。



採点係はてんやわんやの大忙し



放送アナウンスはあこがれの仕事





3・4・5年生の組体操に みなぎる闘志



タグマッチはエキサイティングな採点種目だ！



1・2年生のダンス「ワクワクドキドキ元気よく！」に
思わずアンコール！ みんなにこにこ！

希望の丘の創作ダンスをふり返りました

- にゅうじょうこうしんはぜんぜんだめでした。ぼくたちのチームと次のAチームとの間に、ぱぱっとこうどうできて、すごく早くなったなとおもった。さらちゃんがとくに1年生ががんばっていた。(2年あべひろき)
- もうすこし広くスペースをつかいたかった。自分のえいそうが見れなくてかなしかった。せんとうだったから、きんちょうしてれんしゅうよりできなかった。(2年相澤桃)
- こうしんをもっと上手にやればよかった。もうちょっと大きくうごけばよかった。でもきれいだった。みんなも上手にできてたと思う。おもしろかった。(2年ブンダリッヒレな)
- まりんちゃんのところがすごいじょうずだった。ぼくのところもすごいじょうずでした(2年大野葵生)
- Aグループとかかわるところがすごくかわったので、いいと思いました。タがたのところが、かいとくんといきがあったのでよかったです。(2年市村広太)
- 自分だけビデオにうつっていなかったのも、もしらい年こういうものをやるのなら、ちゃんとバランスがいいならびができるようになります。そして、おきあがるところがちょっとむずかしかったので、がんばりたいです。しかし、Cグループでつくってよかったとおもいます。(2年いおり)

□保護者の皆さんから、フレイテイへの 学校評価のご意見をいただきました！

- 子どもたちが自分の役割を自覚し、責任を持って実行しようとする様子がそこかしこに感じられました。平素、先生方の一人ひとりと向き合い、細部にわたる指導が実を結んでいるのを感じました。里山にある七沢希望の丘初等学校、山や川、田んぼや畑に囲まれ、森を身近に感じる、人間以外の生き物と共存共栄を考えながらの学校生活。入学して半年足らずですが、卒業する頃には地球規模で物事を考え、捉えられる12歳に成長するのではないかと、嬉しい気持ちで孫を見守っております。～略～(山崎喜美子)
- 上級生が下級生をいつも気に掛けてくれて嬉しかったです。一人ひとりが個性や特性を生かして係を分担し、その仕事をまっとうしていました。1、2年生のダンスのアンコールに伝えてくださったり、50m走をもう一度外で走ることができたりと、先生方の心のゆとりや温かさを感じました。ピタゴラリレーはやはりぴかーです。毎年見たい恒例の種目にして良いと思いました。先生方が、子どもたちの可能性を信じてできる限り任せて下さっていました。信頼感が会場を包んでいました。その空気があの場にいた全員に伝わって、全員が参加していました。心から充実して心から楽しい一日でした。ますます希望の丘が大好きになりました。～略～(綿引純子)

「夢へのステップ」、自由研究の成果は大きく！

9月10日（土）の希望の丘初等学校は、子どもたちが夏休みに取り組んだ自由研究の発表会で熱気に包まれました。“豆研究者”18名によるプレゼンテーションもなか



なか堂に入って、参観者も大いに感心し楽しむことができました。児童の皆さん、本当にお疲れさまでした。

10月31日（月）には、自由研究発表会を踏まえた普段の生活を通して興味を持ったり知りたいこと、体験したいことを自分の力で追求し、授業時間で取り組んできた自由研究Ⅱの成果を発表しました。

さて、夏の自由研究発表会のねらいは、子ども自身が日常生活の中で「おやっ？」と思ったことや興味を持っていることなどについて、夏休みの課題の一つとして模造紙にまとめあげて、みんなの前で自分の力で発表することができる教育活動に位置づけてきました。

教育理念に掲げている「生きる喜びを抱き、自ら学びを拓く」ことは、子どもたち一人ひとりが生きる喜びを実感できる教育活動を展開しつつ、子どもたちが発達段階に応じて常に新たな希望を持ち、自らの学びを拓いていくことをめざしています。特に、2学期のテーマ学習「夢へのステップ」に関連づけて、夏の自由研究から「見つける／探す／語る」学習に発展的に取り組みましたが、11月からのテーマ学習は、「さまざまな文化」になります。

今後の課題と展望について整理すると、以下の通りです。

- ① 夏休みの学習課題の一つとして、模造紙にまとめあげる発表会形式は、学年の発達段階を考慮して事前指導や経過指導を経ながら、子どもの力で取り組んでいく方向性が望ましいと考えられる。全学年一堂に会した発表の場は継続していきたい。
- ② 本校の特色ある教育活動である「テーマ学習」の展開を踏まえた上で、夏休みの課題学習／自由研究発表会の機会を教育計画に位置づけていく必要がある。もう一方では、「言語活動の充実」や「コミュニケーション力」を高める学習も意図したい。
- ③ 自由研究に取り組む姿勢や研究内容と研究方法、そして、研究のまとめと発表の仕方に至るまで、「学びの到達目標」を確立する必要があると思われる。



指示棒持つ手に緊張感が！

■保護者の皆さんからご意見をいただきました■

「子どものちょっとした興味・関心から、自由研究を企画して夏休みの間に調べまとめる」こと、基本的には素晴らしい企画だと思います。しかし、子ども自身の中に自分の「？」を自由研究に育てていくという姿勢がまだなかなかできていないので、親の方が力を入れてサポートしないとまとめ上がらないということを感じています。夏休み前に「芽」を意識させることをもう少しご指導していただくと、子どもが自主的に研究するという実感が伴う様な気がします。また、発表会の形ですが、6学年揃うとさらに難しくなると思いますか、敢えて全校統一して一日で行うことに拘っていただきたいと思います。〈西敦子〉

希望の丘のステージに光り輝く子どもたち！

平成23年度の秋に際して、「学校法人内田学園七沢希望の丘初等学校」ではホームページを更新し、それに続いて、この度「七沢希望の丘初等学校新聞」（学校だより）を発行いたします。年度の途中ではありますが、A4版縦型によるニュースレター形式の手に取りやすく読みやすい季刊紙の発行をめざします。本校に在籍する子どもたちの保護者の皆さまと各関係機関の皆さま、そして、地域の皆さま方へお届けいたします。

学校新聞発行のねらいとしては、まず始めに、地域に開かれた魅力ある学校づくりを考えての「発信性」を大切にしていまいります。希望の丘のあらゆる教育環境を生かした特色ある教育活動の展開と子どもたちの豊かな学びと成長の姿を広く読者の皆さまにお伝えし、ひいては本校のめざす教育目標の実現につなげてまいります。二つ目には、日々の教育の営みの中で光り輝く子どもたちの成長の歩みや足跡を綴っていく「記録性」を大事にしていまいります。それは、子どもたちが主体的に生き生きと活躍する授業風景であったり、特色ある学校行事の場面であったり、希望の丘の四季折々の自然環境を交えて、「特集記事」や「トピックス」（その時々話題）、「お知らせ」等々として記事内容に編集していきます。本校のめざす教育の理念「生きる喜びを抱き、自ら学びを拓く」と「子どもたちの夢と希望」の実現のために、この紙面を効果的に生かしていまいります。どうぞご愛読いただきますとともに、ご意見ご感想をいただければ幸いです。

春夏秋冬

希望の丘の学舎は、東に相模野、

南に湘南の海を遠望し、西側にそび

え立つ霊峰雨降の峰に抱かれた丘に

立つ▼杉や檜や竹林と、落葉樹木の

生い茂る里山の自然景観あふれる好

環境の下、子どもたちも大人も皆誰

でも、希望の丘の坂道を上ってくる

▼そして、いよいよ上り詰めた眼前

に「大山」を仰ぎ見て、今日一日に

「夢と希望」を抱いてよく学ぶ▼小

春日和の陽光に南からの風を感じて

「希望丘っ子」はよく遊ぶ。鬼ごっ

こにかくれんぼ、サッカーに野球遊

び、どんな場合も異年齢で仲良く群

れて微笑ましい▼今晚秋を迎えて、

北側の土手一面に「アキノキリンソ

ウ」が群落を成して、黄金色の花模

様が美しい。日当たりの良い山地に

最も普通に見られる多年草で、秋に

咲く黄金色の花の代表の一つである

▼さて、希望の丘に遊ぶ子と、希望

の丘の四季折々の山野草と、何れも

可憐で愛くるしいばかりである。

学校名／学校法人内田学園 希望の丘初等学校

□住所／〒243-0121 神奈川県厚木市七沢 433-1

□電話番号／046-270-6123 FAX番号／046-270-6122

□ホームページ <http://www.nanasawa-kibou.jp>

□E-Mail nanasawa-kibou1@jupiter.ocn.ne.jp

交通アクセス〈電車・バスを利用の場合〉

□小田急線愛甲石田駅下車。神奈川中央交通バス七沢温泉行き約20分。日向川バス停下車、徒歩10分（小田急線本厚木駅・伊勢原駅からもバスは出ています。

自動車を利用の場合

□国道246号線森の里入り口から七沢方面へ約15分



希望の丘にアキノキリンソウの群落地あり